

## 擬態語の習得に関する調査

—日本語を学習する留学生と日本人<sup>(1)</sup>の差について—

福島 薫

### 1. はじめに

N1（日本語能力試験1級）に合格し、母語話者とほぼ相違なく日本語で話し、書くこともできる留学生であっても、日本語の擬態語の意味は理解しがたいという。日本語母語話者の場合、例えば「ふわふわ」という言葉を聞くと「やわらかいもの」を想像するのは容易だが、留学生にとっては「ふわふわ」という言葉を聞いても「やわらかい」というニュアンスが全く感じられないとのことだ。

そこで、本研究では、まず日本語を母語としない留学生にとって真に擬態語の解釈が困難なのかどうかを明確にし、どんな擬態語の解釈はでき、どんな擬態語が解釈困難なのか検証する。

### 2. 調査方法

#### 【被験者】

被験者は留学生128名。国籍は中国、台湾、韓国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、モンゴル、フランス、ロシア、ウクライナ。日本語能力はN1～N5まで様々。日本人は28名で、すべて日本語母語話者。

#### 【擬態語質問紙】

質問項目は10問で、1つの擬態語に対して、答えを3つ用意し、どの答えが一番文脈に合うかを答えてもらうことにした。また選んだ擬態語は非母語話者に推測がしやすいように「ふわふわ」のように同じ言葉を2回繰り返す擬態語のみにした。擬態語の調査は、非日本語母語話者と日本語母語話者に答えてもらった。各質問項目は以下のとおりである。

1. がたがた a. その人はとても がたがた だ b. 風で戸が がたがた 音を立てている c. 私は がたがた 怒った
2. ねばねば a. その机は ねばねば して重い b. 納豆は ねばねば しているからあまり好きではない c. 彼は外国人だけど、日本語を ねばねば と話せる
3. ぴかぴか a. 彼は ぴかぴか のごはんを食べる b. 鏡を ぴかぴか に磨いた c. あの人は ぴかぴか とスキーで滑った
4. ぐるぐる a. 子犬が自分のしっぽを追いかけて ぐるぐる とまわっている b. 私はラーメンを ぐるぐる 食べた c. 寝坊して ぐるぐる 学校に着いた
5. ペこペこ a. 何も食べていないからおなかが ペこペこ だ b. 彼女は若いから ペこペこ している c. 星が ペこペこ ときれいに光っている
6. さらさら a. そのおもちは さらさら して、おいしそうだ b. シャンプーした髪の毛は さらさら している c. こどもが さらさら と笑っている

- 7.ざらざら a. 雲が ざらざら 浮かんでいる b. 私の手は荒れて ざらざら だ  
c. ざらざら と雨が降っている
- 8.ずるずる a. こどもが母親の服を着て ずるずる 引きずりながら歩いている  
b. 部屋を ずるずる きれいに掃除する c. 彼女の肌は ずるずる だ
- 9.つるつる a. 床がぬれて つるつる だ b. さつまいもを つるつる 食べる  
c. 彼に驚かされて つるつる した
- 10.ぬるぬる a. カミナリが ぬるぬる 光った b. 息子を ぬるぬる 叱った c.  
ハンドクリームで手が ぬるぬる している

### 3. 結果及び考察

非母語話者の留学生と母語話者の日本人との間に、擬態語の使い方に違いがあるのか否か  $\chi^2$  二乗検定をして検証した。

10 個の擬態語に対する留学生と日本人の正解数と間違い比較をした結果を表に示す。結果は項目 1~10 のうち、項目 5 と 9 以外のすべての項目で有意 ( $p < 0.05$ ) であった。以下、それぞれの項目について結果と考察を述べる。

表 1. 「がたがた」( 正解は「b. 風で戸が がたがた 音を立てている」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	26	91	11	128	10.6
日本人	0	28	0	28	
合計	26	119	11	156	**

自由度 df :2      \* :  $P < 0.05$  \*\* :  $P < 0.01$

日本人は全員 b を選択し、母語話者は間違いがない結果であった。留学生が c よりも a をより多く選択したのは「がたがた」という言葉が何か人を形容するときに使用する言葉のように感じられたと推察する。

表 2. 「ねばねば」(正解は「b. 納豆は ねばねば しているからあまり好きではない」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	13	102	13	128	6.35
日本人	0	28	0	28	
合計	13	130	13	156	*

自由度 df :2      \* :  $P < 0.05$  \*\* :  $P < 0.01$

この項目に関して、日本人は全員 b を選択した。留学生も 100 人以上が b を選択していることから、納豆を食べた経験があれば、この質問で正解を選択することは容易だったのではないかと推測される。しかし、納豆を食べたことがなかったり、この言葉を聞いたことがな

かったりする留学生からすれば、この言葉が納豆のようなものを想像することは困難であると思われる。

表 3. 「ぴかぴか」(正解は「b. 鏡を ぴかぴか に磨いた」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	10	95	22	128	8.89
日本人	0	28	0	28	
合計	10	123	22	156	*

自由度 df :2 \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目に関して、日本人は全員 b を選択した。結果はこのようになったが、欄外に「新米であれば「ぴかぴか」という言葉を使用するのではないか」というご指摘もあった。しかし結果的には全員が b を選択している。留学生が a よりも c をより多く選択したのは、新米を形容する際に使用することを知らないことや「ぴかぴか」という言葉が何かスキーに結びつくような言葉であると考えたように推察する。

表 4. 「ぐるぐる」(正解は「a. 子犬が自分のしっぽを追いかけて ぐるぐる とまわっている」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	85	25	16	126	9.79
日本人	25	3	0	28	
合計	120	28	16	154	*

自由度 df :2 \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目に関しては、日本人も 3 人が b を選択した。筆者にはラーメンをぐるぐる食べるという意味が理解できないので、何故 3 人もの日本人が b を選択したのか理解できず、推測もできない。筆者にとってはかなり意外な結果であった。また留学生に関しても、正当率が低く、b を選択している学生が c より多くなっているのは、「ラーメン」と「ぐるぐる」という言葉に何らかの結びつきを感じている可能性がある。

表 5. 「ぺこぺこ」(正解は「a. 何も食べていないからおなかが ぺこぺこ だ」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	111	7	10	128	3.19
日本人	25	3	0	28	
合計	136	10	10	156	

自由度 df :2 \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目は有意が出なかった。これは「ぺこぺこ」という言葉は、食事という毎日の生活の中で必ず行われる行為であり、その直前に日本人が頻繁に使用する言葉であるから、留学生にとってもなじみのある言葉なのではなかろうか。しかし、そのように留学生にとっては身近であろう言葉なのだが、その言葉で日本人3人がbを選択している。これは「頭をしきりに下げるさま。また、へつらうさま」の意味で使用する「ぺこぺこ」の意味に解釈したからであろう。しかし、その場合は社長や部長といったぺこぺこする対象を表す言葉が必要であると筆者は考える。そのため、一番適当な選択肢はaであるのだが、語彙をよく知る母語話者であるからこそその間違いであったといえるであろう。

表6. 「さらさら」(正解は「b. シャンプーした髪の毛は さらさら している」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	21	81	26	128	14.71
日本人	0	28	0	28	
合計	21	109	26	156	**

自由度 df :2    \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目に関して、日本人は全員bを選択した。留学生もbを選択した学生がもっとも多いものの、aとcにも比較的多く分散している。それだけ、この「さらさら」という言葉を留学生が習得していず、またどのように使われるかがイメージしにくいと解釈できるのではないだろうか。

表7. 「ざらざら」(正解は「b. 私の手は荒れて ざらざら だ」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	10	45	68	123	29.49
日本人	0	24	1	25	
合計	10	69	69	148	**

自由度 df :2    \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

上記6の項目「さらさら」に似た言葉のせいなのか、この言葉に関しても、留学生の選択がかなり分散した結果となった。つまりこの言葉も習得が困難である可能性がある。正解であるbよりもcを選択した学生が多数いるのは、雨が降るときに使用する「ざあざあ」と似たような言葉であるから、このように使用するかもしれないと考えたのか、もしくは単に「ざあざあ」と間違えたのではないかと推察する。日本人でも1人だけではあるがcを選択した人があるのは、留学生と同じ事情によるのであろうか。いずれにしろ、この言葉は解釈が困難な言葉であると思われる。

表 8. 「ずるずる」(正解は「a. こどもが母親の服を着て ずるずる 引きずりながら歩いている」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	43	17	59	119	29.79
日本人	24	0	1	25	
合計	67	17	60	144	**

自由度 df :2      \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目に関しても、表 6, 7 と同様、留学生の選択がかなり分散した結果となった。c を選択した人数が正解である a を選択した人数をはるかに上回る結果となった。「ずるずる」はここに挙げた「重い物や長い物をゆっくり引きずるさま」という意味のほかに「少しずつ滑り落ちたり、後退したりするさま」「物事の決まりをつけないさま」「音を立てて汁を飲んだり、鼻汁をすすったりするさま。また、その音を表す語」と様々な意味で使用される言葉であるが、c はそのいずれにも当てはまらない。しかし肌を形容する言葉に「つるつる」があるから、「ずるずる」をこの「つるつる」と勘違いしたという可能性はあると考える。

表 9. 「つるつる」(正解は「a. 床がぬれて つるつる だ」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	82	24	17	123	0.00
日本人	25	0	0	25	
合計	107	24	17	148	

自由度 df :2      \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目は有意が出なかった。日本人は全員が a を選択しているが、留学生の選択はかなり分散した結果となった。b を選択した留学生が若干多いのは「つるつる」はこの用法のほかに「つるつるうどんを食べる」のように麺類を食べるときに使用するので、何かを食べるときに使用する言葉であると解釈した可能性がある。

表 10. 「ぬるぬる」(正解は「c. ハンドクリームで手が ぬるぬる している」)

	a	b	c	合計	$\chi^2$ 値
留学生	16	16	89	121	8.47
日本人	0	0	25	25	
合計	16	16	114	146	*

自由度 df :2      \* : P<0.05 \*\* : P<0.01

この項目に関して、日本人は全員 b を選択した。正解ではない a と c を選択した留学生は同数であることから、この言葉は意味がわからなかったときの解釈が困難であると推察する。

今回の調査では、「ねばねば」「ぺこぺこ」に関しては、128 人中 100 人を超える留学生が正解を選択していたことから、この 2 つの言葉に関しては、多数の留学生が習得している、またはその意味の解釈が容易であったと考えられる。

しかし、それ以外の言葉については、その言葉の解釈は困難であるといえるのではないだろうか。

また、「ざらざら」という言葉で誤答が多かったのは「ざあざあ」といった、似たような意味であると解釈するのではないかということが推察された。

#### 4. 今後の課題

今回の調査では、日本語母語話者と非母語話者の擬態語の習得および使用の違いに差のあることが明確になった。今後は母語によって結果に違いがあるのか、また日本語能力によって異なった結果が出るのかについて、また言葉のもつ音がどのようなイメージを抱くのかについても調査を進めたい。

#### <注>

(1) ここで述べる日本人とは日本語母語話者を指す

#### <参考文献>

田嶋香織 (2006) 「オノマトペ (擬音語擬態語) について」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集 16 号』: 193-205

(ふくしま かおり 姫路獨協大学非常勤講師)

purinkaori@yahoo.co.jp